

童話 けんくわ

千葉省 三

雨の降る日に、おれら高アア笑つた。
三年の教室へ四年の録ち
やんがひよつこはいつて

『丑！丑はぬえか』
録ちやんは教室を見廻し
た、そして隅っこに立つて

『なんしてんだ、こつちさ』
とつぶつぶとつぶつぶと
録ちやんは丑の手をつか

『先づおつちで休ませよ』
波瀾万丈の此の世に活動して彼處に起業、
此方に成功、千辛萬苦の功を積み一生涯を

行發日七十月三
(刊休日) 日祭曜日

にそれは飛んだ事になつた。
人の心配も知らぬで、とめるどころぢやアねへ、何内の寄合に使つたり、踊り

『春の日さああたかな』
れや家ごと、日光を
入れて窓をあけたり

『親が子を慕ふ』
が、女長兵衛は全く徳人で
下には集まつた連中、仲好く

『先づおつちで休ませよ』
波瀾万丈の此の世に活動して彼處に起業、
此方に成功、千辛萬苦の功を積み一生涯を



△仙臺 JORR
△前七〇〇〇 ラヂオ體操
△七、三〇〇 佛敎講座(四十

謝近火御見舞
三月十七日
大床石崎幸一
電話一八八番

湖 仲 福 尼
清野音吉
鈴木千代吉
鈴木武雄
板橋清吉
新田町

大野寫眞館
君乃家
照よし
安齋外科醫院

品澤あく
鳥留
玉章堂印刷店
久保田パンヤ賣店

大崎洋服店
海老屋商店
大塚製靴具部

高久病院
中島寫眞館
平澤勝次郎

友部清滋
オリエント美容院
平撞球場

大野寫眞館
君乃家
照よし
安齋外科醫院

古山電氣商會
古川清吉
伊藤眞一

金子屋酒店
三二三屋
吉田眼科病院

吉田眼科病院
平撞球場
魚榮

本社の慰問に對する謝狀一束 135

満洲死の街化した八市が
我軍を迎へて色めく
忘れ得ぬ感激的光景よ！

上遠野村出身 松本秀之輔君

春暖の候となりて参月八日雖々くも満洲の荒を惜めだ、心の中で斯う呼びに待つて居ります。其内にて来た事でも、北滿の名の英靈を永久に送つた十九日ながら眼から止りぬるる涙も、其内にて来た事でも、北滿の名の英靈を永久に送つた十九日ながら眼から止りぬるる涙も、其内にて来た事でも、北滿の名の英靈を永久に送つた十九日ながら眼から止りぬるる涙も、

君等の英姿を思へ
先ず實行は困難の様
詳細調査の上更に協議

ガソリン共同購入

火に呪はれた平町
今曉全半焼十戸を出す
十日足らずに三度目の火事騒ぎ

明治三十九年の
大火と火元は同じ
今曉の火事に絡る因縁話

名譽の戦死
を遂げ

各情地各
スーユニ

目下はハルビン支那兵舎の六十八番地は明治三十九年の二月十八日二度目に平町大火のあった火元と同じ

武運長久祈願を兼ね
招魂祭は盛大に執行

意外に進捗

美術館は

金成竹太郎翁盛葬

奉給未拂

先づ釋放

今朝道匠小路で
四才の女兒轢殺

密會が発覺

五千立方米使用

佛作の身柄

見習生募集

高橋時計店

高久病院

近火御見舞御禮

類焼御見舞御禮

謝近火御見舞

野崎満藏

井坂久吉

磯山紋店

廣瀬支店

謝近火御見舞

近火御見舞御禮

謝近火御見舞

野崎満藏

井坂久吉

磯山紋店

廣瀬支店

市原病院

高橋時計店

高久病院

見習生募集

佛作の身柄

密會が発覺

奉給未拂

招魂祭は盛大に執行

意外に進捗

美術館は

金成竹太郎翁盛葬

火に呪はれた平町

ガソリン共同購入

君等の英姿を思へ

名譽の戦死